

令和4年度 全国学力・学習状況調査から見える王寺町の児童生徒

はじめに

王寺町の児童生徒の学力・学習状況における教育課題を明らかにし、学校・家庭・地域が一体となって連携・協働することにより、その課題克服に向けて取り組むために調査の分析結果を公表します。

1 調査の概要

○調査の目的

- ・児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図る。
- ・本調査の結果を児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・このような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

○調査実施日 令和4年4月19日(火)

○調査対象 王寺町立義務教育学校のすべての6年生と9年生

○調査内容

教科に関する調査 6年生【国語、算数、理科】

9年生【国語、数学、理科】

※ 全国学力・学習状況調査が平成19年度から開始され今回で17年目の実施となりました。過度な序列化を防ぐため、平成29年度から、自治体別の平均正答率は、小数点以下を四捨五入し、整数値で示されるようになり、政令市ごとの平均正答率も公表されるようになりました。

平成22年度と24年度は全体の3割程度の抽出調査、平成23年度は、東日本大震災の影響等で全国的な実施は取り止めとなりました。また、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため実施を取り止め、令和3年度は新型コロナウイルス感染症により、調査日を例年より1か月後ろ倒しで実施しました。

全児童生徒を対象とした悉皆(しっかい)調査は今回で13回目となります。

理科に関しては平成24年度から3年ごとに実施されているため、悉皆調査としては平成27年度、平成30年度に続いて3回目の実施となります。

2 調査結果の概要

(1)学力・学習状況調査結果の概要

◇ 王寺町の児童生徒の国語、算数・数学、理科の学力、国語、算数・数学、理科への興味・関心、規範意識、自己有用感、生活習慣・学習習慣を全国基準の状況と比較しました。6年生・9年生共に、学力については比較的高位にあります。一方、生活習慣・学習習慣については、全国より低位になっています。学習状況は、学力に大きく影響するという分析もあります。いずれの項目も改善するように、学校、家庭、地域が協力して取り組んでいく必要があります。

(教科調査の結果)

◇ 自分の考えが伝わる文章になるように根拠を明確にして書くことや、データの特徴や傾向を読み取ること、科学的な探究の過程で問題を見いだしたり考えの妥当性を検討して改善したりすることに課題が見られました。昨年度から取組をはじめたりリーディングスキルテストの結果を活用するなど、改善に向けて取り組んでいく必要があります。

(質問紙調査の結果)

◇ 学習指導要領が目指している「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、授業改善の取組が昨年度から引き続き進んでいます。

◇ 理科については、理科に関する興味・関心等について前回調査時と比べて特に生徒で肯定的な回答が増加しています。また、観察や実験をする授業を行った頻度は減少した一方で、観察や実験に関する指導改善の取組が全国の小中学校ともに進んでいます。

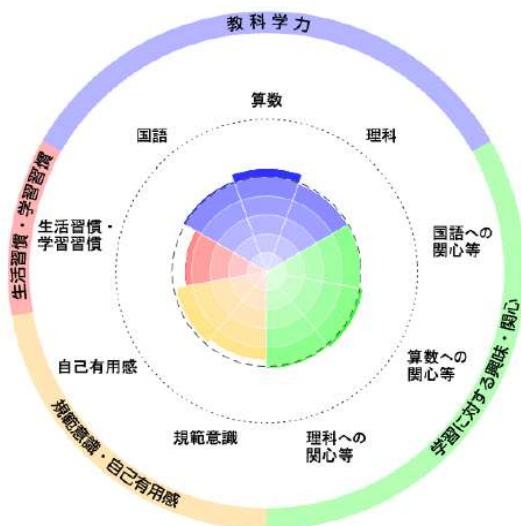
王寺町では各義務教育学校の5・6年生において理科に教科担任制を導入し、専門性が高い教師が指導に当たっています。

◇ ICT機器を利用した学習状況については、昨年度に比べて授業での活用頻度が全体として増加している一方で、授業における場面ごとのICT機器の使用頻度については差が見られます。また、学校におけるICT機器の活用に関する研修機会や専門スタッフの配置などのサポート体制の整備が進んでいます。

王寺町では今年度より各義務教育学校に、大容量の高速Wi-Fi、超短焦点型プロジェクターを設置した黒板、一人一台のタブレット端末等、環境整備の充実を図るとともに、ICT支援員を配置し、ICTを活用した授業の充実を図っています。

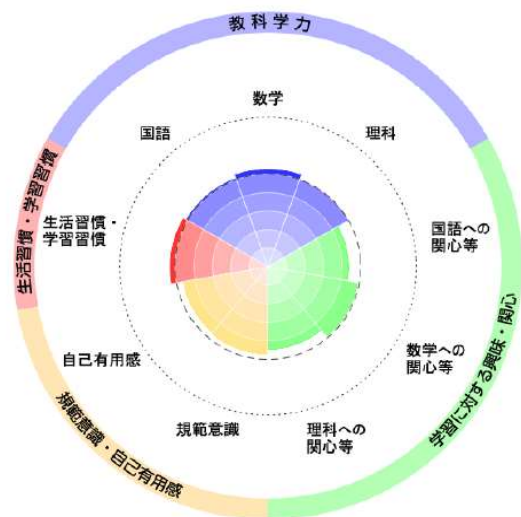
6年生

児童質問紙(全国基準)



9年生

生徒質問紙(全国基準)



(2)教科に関する調査結果

調査結果を学校種別・教科別に王寺町・奈良県・全国の平均正答率を比較しました。

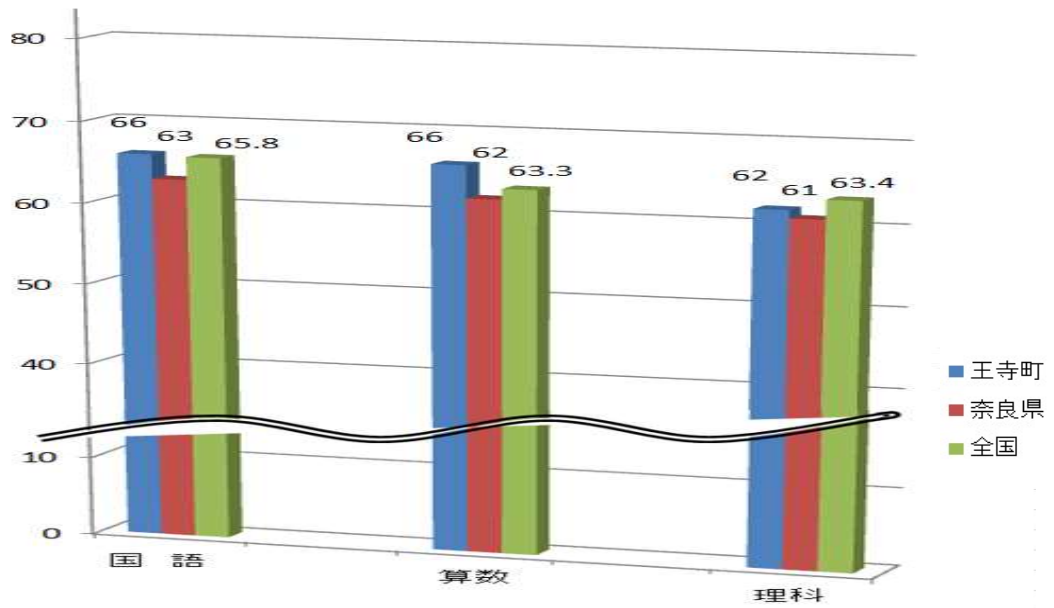
【この調査結果における平均正答率等は学力の特定の一部を表わしたものであり、学校における教育活動の一側面となります。】

<<全般的な出題内容と全国的な傾向>>

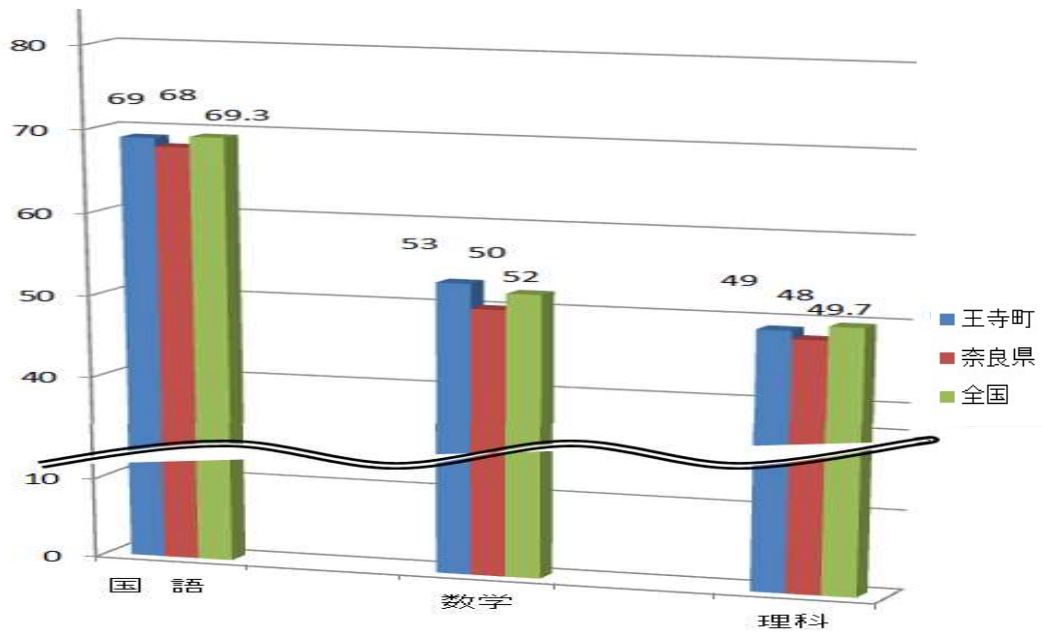
【教科全体】

- ◇ 奈良県の正答率は、小学校、中学校ともすべての教科で全国平均より低い結果となりました。王寺町立義務教育学校の6年生と9年生の正答率は、すべての教科で奈良県平均より高くなりました。全国平均との比較では、理科の結果が低くなりました。その他の結果は全国と同程度か高くなっています。
- ◇ 思考力や表現力を問う応用問題の不振は、全国的な傾向としてテスト開始当初から続いています。必要な情報を読み取り、前後のやり取りから自分の考えを軌道修正したり、相手の発言の意図を理解したりすることにより、実社会で必要とされる論理的に表現する力をいかに育てるかが課題となります。そのため王寺町ではリーディングスキルテストを実施し、情報を読み取る力の実態を明らかにし、指導法の改善につなげています。

6年生:国語、算数、理科の平均正答率



9年生:国語、数学、理科の平均正答率



【6年生 国語】

（課題）

- 互いの立場を尊重して話し合いを進める上で、必要なことを質問して話の中心を捉えることはできていますが、学習指導要領で新たに示された、相手とのつながりをつくる言葉の働きを捉えることに課題が見られます。
- 文章の構成や展開について感想や意見を伝え合うことを通して自分の文章のよさを見つけることに課題が見られます。

〈言語の特徴や使い方に関する事項〉

- ◇ 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉えることに課題があります。
- ◎ 話し手と聞き手の間に好ましい関係を築き、継続させる言葉の働きに気づくことができるように、振り返りの場面などで自分たちの話し合いの様子を確かめる活動が大切です。

〈話すこと・聞くこと〉

- ◇ 必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや聞き手が聞きたいことを中心に捉えることはできています。
- ◇ 互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめることに引き続き課題があります。
- ◎ 異なる意見を自分の考えに生かして考えをまとめることができるように、「～という意見もあったが」「～という考えもあるけれど」などの表現を話し合いの中で用いることが大切です。

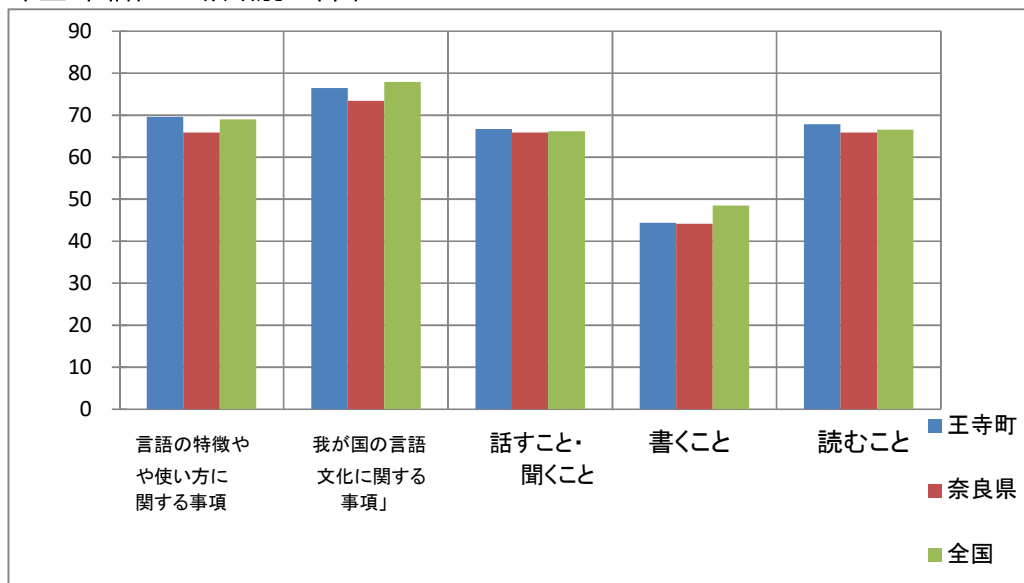
〈書くこと〉

- ◇ 文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることに課題があります。
- ◎ 自分の文章のよいところとして、第1・2学年では「内容や記述などに見られる具体的なよさ」、第3・4学年では「書こうとしたことの明確さ」、第5・6学年では「文章全体の構成や展開の明確さ」などを見つけることができるように、系統的に学習することが大切です。

〈読むこと〉

- ◇ 登場人物の相互関係について、描写を基に捉えることはできています。
- ◇ 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることに課題があります。
- ◎ 表現の効果を考えるとは、様々な表現が読み手に与える効果について自分の考えを明らかにしていくことであるので、「何が書かれているのか」という内容面だけでなく、「どのように描かれているか」という表現面にも着目して読むことが大切です。

6年生 国語 領域別正答率



【6年生 算数】

〈課題〉

- 学習指導要領に新設された「データの活用」の領域において、表の各欄と合計欄の意味を理解して、ある項目に当たる数を求めることはできていますが、目的に合う円グラフを選び、読み取った情報を答えることに課題があります。
- 日常生活の場面に即して、数量が変わっても割合は変わらないことを理解することに課題があります。

〈数と計算〉

- ◇ 二つの数の最小公倍数を求めることはできています。
- ◇ 示された日常の事象における場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察することに課題があります。
- ◎ 日常生活において、数の大きさを見積もる必要があるときは、目的に応じて数を大きくみたり小さくみたりして、概算できることが大切です。

〈図形〉

- ◇ 図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方を理解することはできています。
- ◇ 正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述することに課題があります。
- ◎ 辺の長さや角の大きさなどに着目して、図形の意味や性質を基に、作図の仕方を考えたり、作図の仕方を筋道を立てて説明したりすることが大切です。

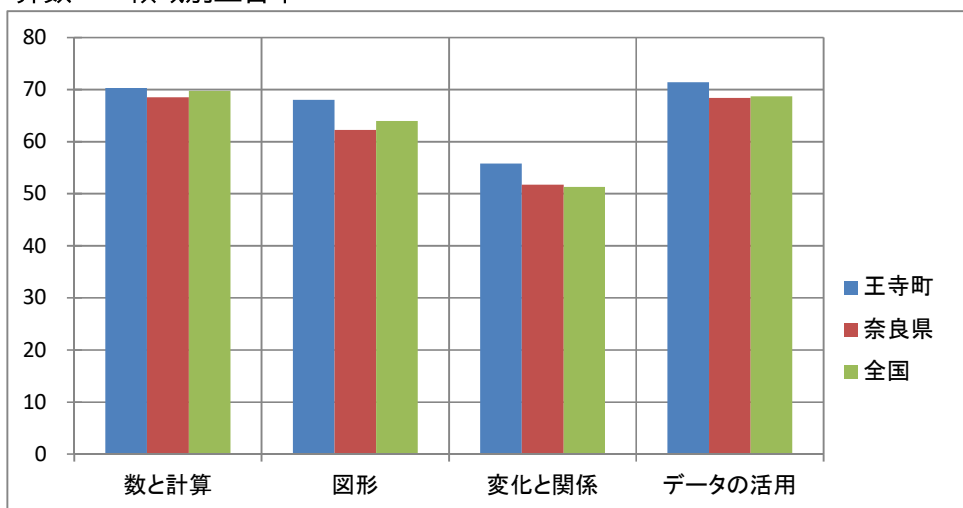
〈変化と関係〉

- ◇ 割合を用いて問題を解決する場面において、数量が変わっても割合は変わらないことを理解することに課題があります。
- ◎ 日常の場面に对应しながら割合について理解したり、図や式などを用いて基準量と比較量の関係を表したりすることが大切です。

〈データの活用〉

- ◇ 表の意味を理解し、ある項目に当たる数を求めることはできています。
- ◇ 分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察することや、目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることに課題があります。
- ◎ 日常生活の問題を解決するために、目的に応じて、必要なデータを収集し、観点を決めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目して考察できることが大切です。

6年生 算数 領域別正答率



【6年生 理科】

（課題）

- 学習指導要領で重視されている問題解決の力を踏まえて、初めて出題された「問題の見いだし」について、気づいたことを基に分析して解釈し、適切な問題を見いだすことに課題が見られます。
- 観察、実験などに関する技能については、実験の過程や得られた結果を適切に記録したものを選ぶことはできています。一方、自然の現象について知識を日常生活に関連付けて理解することに引き続き課題が見られます。

〈エネルギー〉

- ◇ 重ねた日光と水的の温度についての問題を的確に把握し、問題を解決するために必要な結果を適切に記録したものを選択することはできています。
- ◇ 日光を当てた時、缶の色と水の温度の変化にどのような関係があるかについての実験で得た結果を分析して解釈し、具体的な数値や分析した内容に基づいて、結論の根拠を記述することに課題があります。
- ◎ 観察、実験の結果の具体的な数値や、それを分析した内容などを根拠として表現することが大切です。例えば、問題に対するまとめを行う際に、結果を具体的な数値として学級内で共有し、何を結論の根拠としているかを明らかにし、より妥当な考えをつくり出す学習活動が考えられます。

〈粒子〉

- ◇ 砂糖水を凍らせた物が水に沈んだという情報を、自分や他者の気づきを基に分析して解釈し、適切な問題を見いだし記述することに課題があります。
- ◎ 自然の事物・現象に働きかけて得た事実について話し合う中で、自分や他者の気づきを基に差異点や共通点を捉え、問題を見いだす場面を設定した学習活動が大切です。

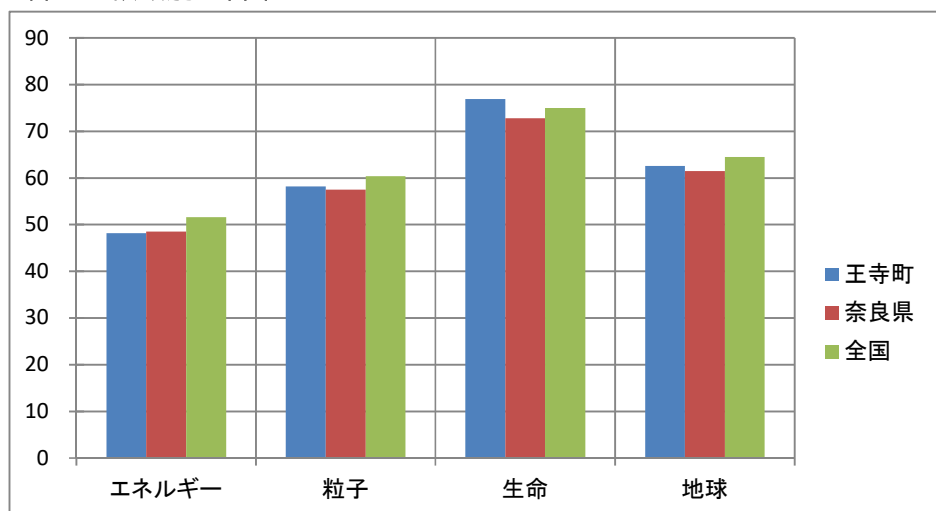
〈生命〉

- ◇ 昆虫を観察する場面において、問題を解決するために必要な観察の視点を基に、解決の道筋を構想することはできています。
- ◇ 昆虫の育ち方と食べ物についての表を整理する過程で気付いたことを基に、適切な問題を見いだすことには課題があります。
- ◎ 観察、実験の結果を、自分や他者の気づきを基に分析して、解釈し、問題を見いだすことができるようにするために、それぞれの気づきを明確にし、主に差異点や共通点を基に問題を見いだす場面を設定する学習活動が大切です。

〈地球〉

- ◇ 天気と気温の変化を観察した結果を分析して解釈し、問題に正対した結論を導き出すことはできています。
- ◇ 水が水蒸気になって空気中に含まれていることを日常生活に関連付けて理解することに引き続き課題があります。
- ◎ 知識をより深く理解できるようにするために、問題解決を通して習得した知識を日常生活との関わりの中で捉え直すことが大切です。

6年生 理科 領域別正答率



【9年生 国語】

(課題)

- 「書くこと」及び「情報の扱い方に関する事項」(学習指導要領に新設)に係る出題において、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするための必要な情報を、資料から引用して書くことに課題があります。
- 「話すこと・聞くこと」に係る出題において、具体的な助言があればスピーチの表現を工夫することはできていますが、話し方の工夫について自分で考えることに課題が見られます。

〈我が国の言語文化に関する事項〉

- ◇ 漢字の行書の読みやすい書き方や、漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方について理解することはできていますが、行書の特徴を理解することには課題があります。
- ◎ 「点画の連続」や「点画の省略」、「筆順の変化」などの行書の特徴を、伝統的な文字文化とも関連させながら理解し、それぞれがどのような書き方なのかを具体的に捉えて、実際に書くことが大切です。

〈話すこと・聞くこと〉

- ◇ 具体的な助言を生かして、スピーチの一部を問いかけたり呼びかけたりする表現に直すことはできていますが、意図を明確にして、話し方(言葉の抑揚や強弱等)の工夫を自分で具体的に考えることに課題があります。
- ◎ 話す際の工夫が様々あることを理解し、自分の考えを分かりやすく伝えるにはどのような工夫が効果的なのかを、聞き手の立場に立って考えることが大切です。

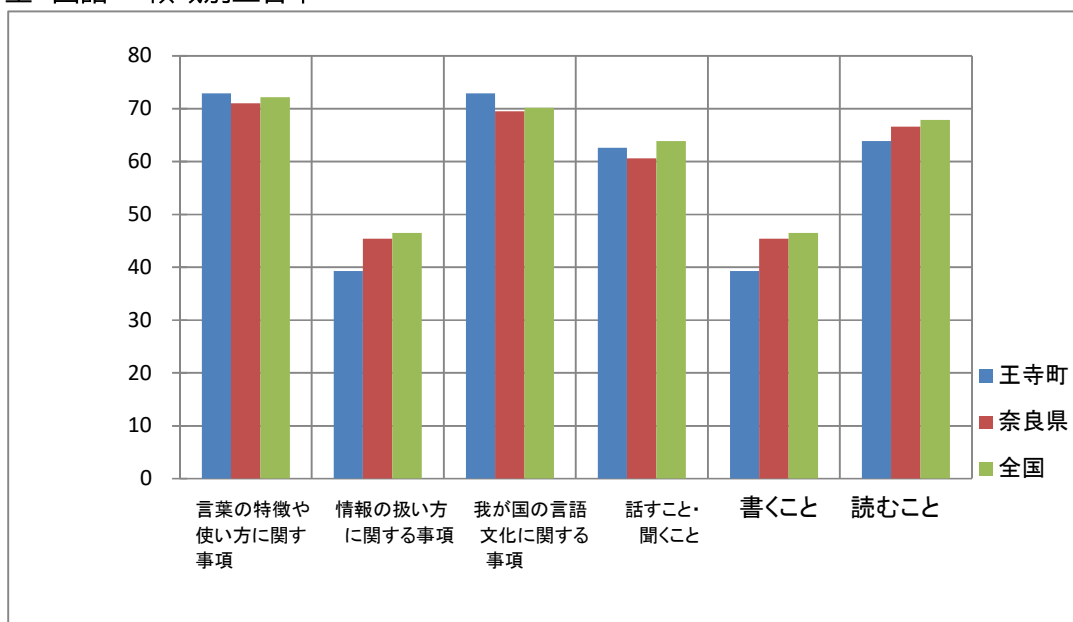
〈情報の扱い方に関する事項〉〈書くこと〉

- ◇ 引用の仕方や出典の示し方について理解し、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書くことに課題があります。
- ◎ 本や資料から文章や図形などを引用する必要がある言語活動の中で、引用の際には引用個所をかぎかっこ(「 」)でくくこと、出典を明示すること、引用部分を適切な量とすることなどについて確認するとともに、引用する目的や効果について考えるようになることが大切です。それらを踏まえて、意見文などを書く際に、自分の考えを支える根拠として資料を適切に引用できることが大切です。

〈読むこと〉

- ◇ 文学的な文章を読み、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えることに課題があります。
- ◎ 言葉を手掛かりにしながらか文脈をたどり、第7学年では「場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化」などを、第8学年では「登場人物の設定の仕方」などを、第9学年では「物語の展開の仕方」などを捉えて、内容を理解できるように系統的に学習することが大切です。

9年生 国語 領域別正答率



【9年生 数学】

〈課題〉

- 「データの活用」の領域において、多数回の試行によって得られる確率の意味の理解には改善の傾向が見られます。一方、学習指導要領において統計的内容が充実したことを踏まえ初めて出題した「箱ひげ図」からデータの分布の特徴を読み取ることに課題が見られます。
- 「関数」の領域において、日常的な事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに引き続き課題が見られます。

〈数と式〉

- ◇ 結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することに課題があります。
- ◎ 結論が成り立つための前提を考え、見いだした事柄を数学的に表現できるようにするために、すでに成り立つことが示された事柄を基に、前提を変えても成り立つ場合を考えて話し合う活動を行うことが大切です。その際、成り立つ事柄を予想するために、具体例をあげて調べる活動を充実することが大切です。

〈図形〉

- ◇ 筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することに課題があります。
- ◎ 結論を導くために何が分かればよいかを明らかにしたり、与えられた条件を整理したり、着目すべき性質や関係を見だし、事柄が成り立つ理由を筋道を立てて考えたりする活動をして、事柄が成り立つ理由について数学的に説明できることが大切です。

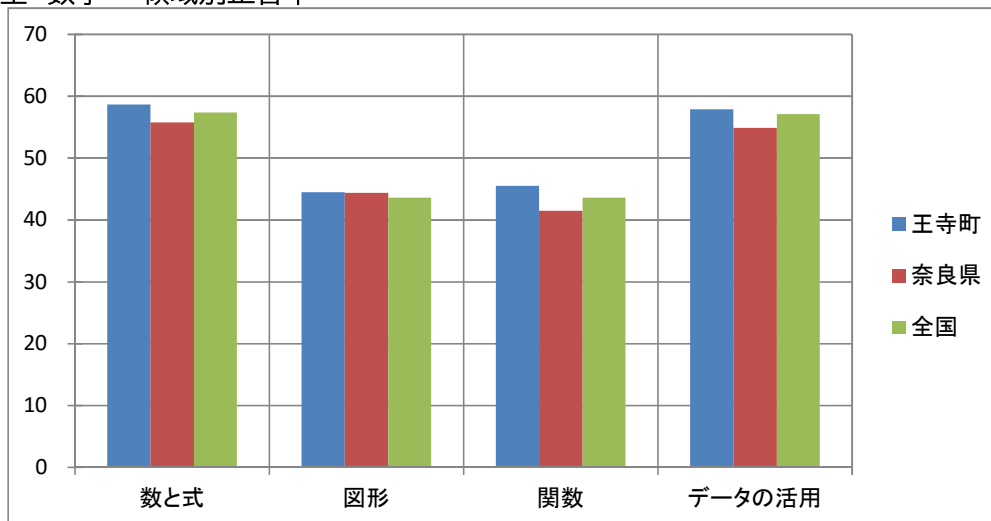
〈関数〉

- ◇ 日常的な事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに引き続き課題があります。
- ◎ 様々な問題を数学を活用して解決できるようにするために、問題解決の方法に焦点を当て、表、式、グラフなどの「用いるもの」と、それらを問題解決するためにどう用いたかといった「用い方」を明確にして、問題解決の方法を数学的に説明できることが大切です。

〈データの活用〉

- ◇ 多数の観察や多くの試行によって得られる確率の意味の理解には、改善の傾向が見られます。
- ◇ 箱ひげ図からデータの分布の特徴を読み取ることに課題があります。
- ◎ 箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができるようにするために、複数の集団のデータの分布を比較する場面を設定し、データを整理して箱ひげ図に表し、データの分布の傾向を比較して読み取ることが大切です。

9年生 数学 領域別正答率



【9年生 理科】

〈課題〉

- 学習指導要領において科学的に探究する学習が重視されていることを踏まえ、探究の過程における検討や改善を問う設問について、他者の考えの妥当性を検討したり、実験の計画が適切か検討して改善したりすることに課題が見られた分野があります。(力の働き、天気の変化等)
- 過去に課題が見られた実験の計画における条件の制御については、改善の状況が見られます。

〈エネルギー〉

- ◇ 変える条件と変えない条件を制御した実験を計画することはできており、実験の計画における条件の制御について改善の状況が見られます。
- ◇ 「力の働き」に関する実験において、考察の妥当性を高めるために、実験の計画を検討して改善することに課題があります。
- ◎ 考察の妥当性を高めるために、実験結果の処理について振り返り、例えば測定する間隔や範囲などの改善の視点を明確にした上で、実験の計画を検討して改善する学習活動が大切です。

〈粒子〉

- ◇ 分子のモデルで表した図を基に化学変化を化学反応式で表すことに改善の状況が見られます。
- ◇ 物質の状態変化に関する知識及び技能を活用することに課題があります。
- ◎ 「粒子」に関する知識及び技能と、身近な現象とを関連付けて探究する学習を繰り返し取り組むことが大切です。

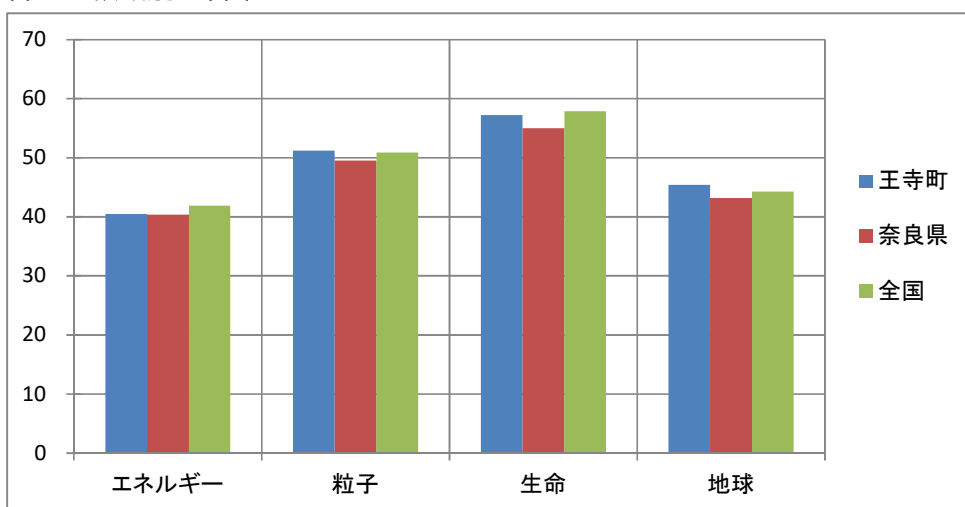
〈生命〉

- ◇ 複数の脊椎動物の外部形態の考察において、共通点と相違点を分析して解釈することはできています。
- ◇ 動物の様子を観察において、観察、実験の操作や条件の制御など、探究の方法について検討し、探究の過程について見直しをもつことに課題があります。
- ◎ 課題を解決するまでの探究の過程を見通すことが大切です。実験の計画を立案する際に予想や仮説と異なる結果が出る場合を想定し、課題を解決するために適切な探究の方法について、話し合い活動を通して確認する学習活動が大切になります。

〈地球〉

- ◇ 地上の観測データを用いて考察を行った他者の考えについて多面的、総合的に検討して、他者の意見を踏まえて自身の考えの見直しを図ることに課題があります。
- ◇ 過去の大地の変動について、垂直方向の移動だけで推論した他者の考えを検討して改善することはできていますが、地層の広がり方について、主として時間的・空間的な視点で地層の傾きの方向を分析して解釈することに引き続き課題があります。
- ◎ 地層モデルなどを活用して地層を立体的に捉え、試行錯誤しながら広がり方や傾きを考えるような学習活動が大切です。

9年生 理科 領域別正答率



3 児童・生徒質問紙調査の経年変化

【質問紙調査】

◇ 義務教育学校の児童生徒に学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査が実施されました。学校に対する質問紙調査は約80項目。児童生徒に対する質問紙調査は約70項目ありました。平成25年度～令和4年度の経年変化について整理し、その中から特徴的な項目を抜粋しました。

①【朝食を毎日食べていますか】

6年生では、経年の傾向としては95%前後の児童がほぼ毎日朝食を食べていますが、今年度は90%とやや減少しています。一方、9年生では、ほぼ毎日朝食を食べている生徒の割合は以前の80%台への減少傾向から、昨年と一昨年に約90%に回復し、今年度は93%となっています。

②【学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間勉強をしていますか】

例年の傾向として、2時間以上勉強している児童の割合は40%台前半でしたが、今年度は33%と減少していますが、全国平均よりは約8ポイント高くなっています。

また、2時間以上勉強している生徒の割合は51%で、こちらも昨年より8ポイント減少し、全国平均より約16ポイント高くなっています。

③【学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間読書をしていますか】

「読書は好きですか」の問いに対して、王寺町の児童の76%、生徒の62%が肯定的な回答をしており、読書好きな状況が見えます。

一方、平成28年度までの児童生徒の読書時間の割合は、全国平均と比較しても特徴的な点はありませんでしたが、令和4年度は「全くしない」児童の割合が34%になっています。これは、全国平均よりも7.5%も高い状態です。生徒は「1日当たり30分以上、1時間未満は読書をしている」割合が令和3年度には82%まで増えていましたが、令和4年度は10.6%になり、さらに読書時間の少ない「10分以上、30分より少ない」生徒の割合が34%、「10分よりすくない+全くしない」が43.3%となっています。

全国的に読書の時間が減少していますが、王寺町の児童生徒の読書離れも大きくなっています。

④【今住んでいる地域の行事に参加していますか】

例年の傾向として、地域行事に参加している児童生徒の割合は、全国平均よりもかなり高くなっていましたが、令和4年度の「参加している+どちらかといえば参加している」割合は、児童が67%で全国平均と同様で、生徒は53%と全国平均より10ポイント高くなっています。また、それぞれの結果は令和3年度以降、低いものになっており、コロナ禍の影響が見て取れます。

⑤【地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか】 ※平成28年度から設置された質問

令和3年度、令和4年度は、この質問の設定がありませんでした。

⑥【新聞を読んでいますか】

「ほぼ毎日読んでいる+週に1~3回読んでいる」と回答した児童の割合は12%で、全国平均よりも1ポイント低くなっています。生徒は13%で、全国平均よりも3ポイント高くなっています。王寺町の結果も全国の結果も新聞を全く読まない児童生徒の割合が70%を超えています。これは新型コロナウイルス感染防止対策として、学校図書館で新聞閲覧ができなくなったことによる影響が大きいと考えます。

新聞を読んでいる割合が伸びない背景として、新聞を定期購読している家庭が減ってきているところが考えられますが、王寺町では、平成28年度から小・中学校の各教室(小学校は5・6年生の教室)と学校図書館に新聞を配置しています。

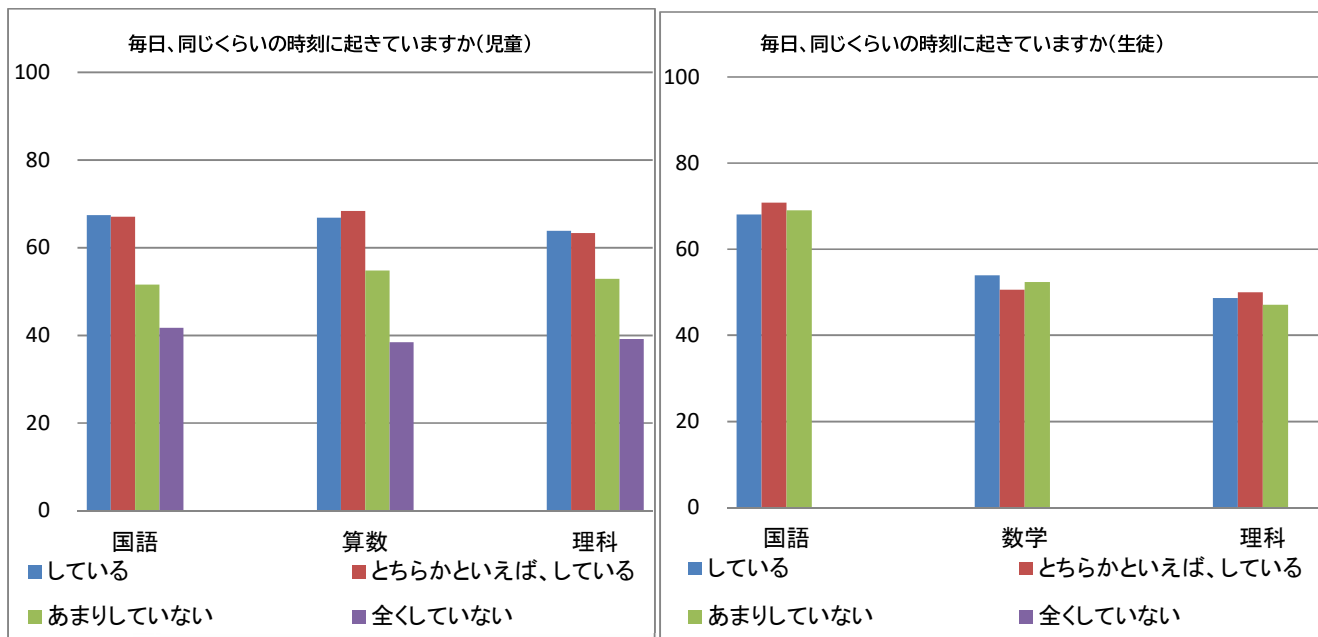
(現在は義務教育学校の5・6年生の教室とメディアセンターに配置しています。)

各学校がNIE(Newspaper In Education=学校で新聞を教材として活用する)教育に力を入れています。

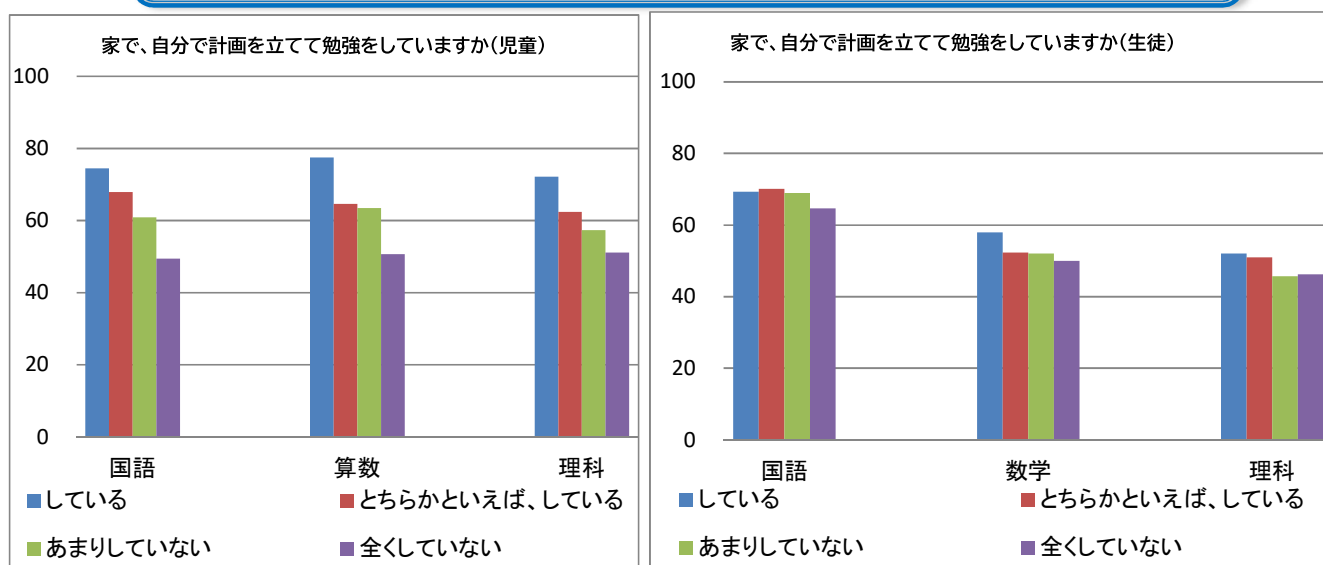
4 家庭への提案

児童生徒の学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査と国語、算数・数学、理科の各教科正答率との間に相関関係が見られる項目がありますので、今後、お子様の家庭生活を見直す資料にしていきたいと思ひます。

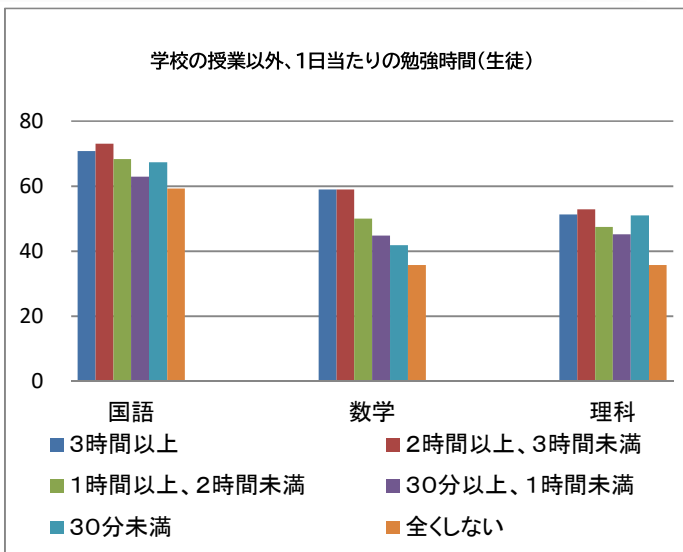
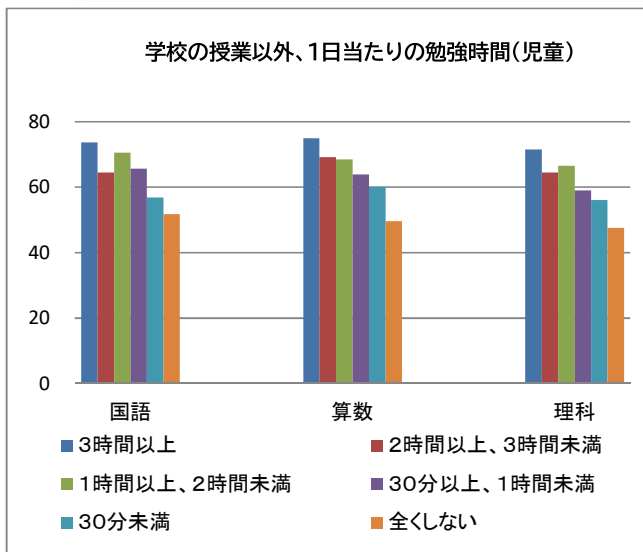
<<質問紙調査と各教科正答率との間に見られる特徴的な相関関係>>



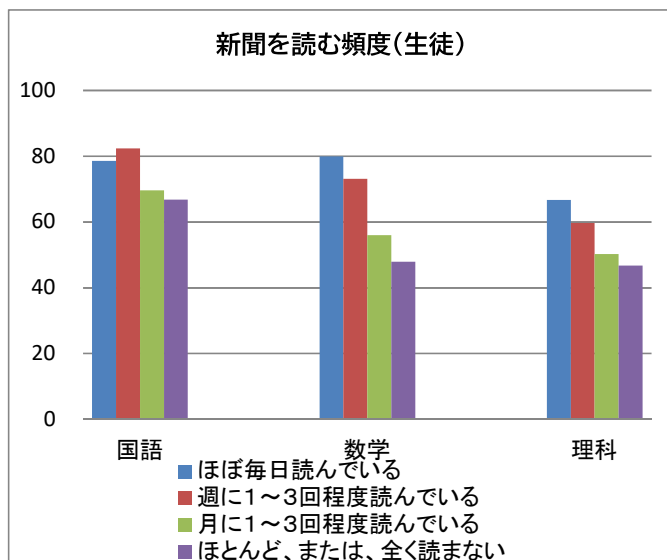
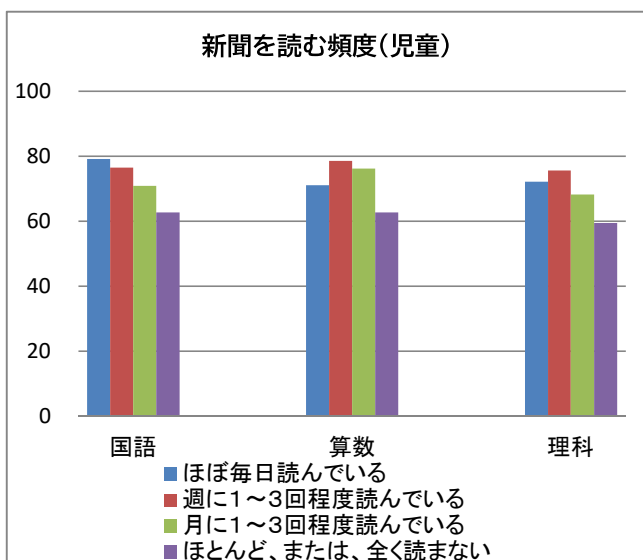
毎日同じ時刻に起きている児童は、正答率が高い傾向が見られます。生徒に関しては部活動や塾等により、生活リズムがとりにくい状況があります。「全くしていない」生徒は0人です。



家で、自分で計画的に勉強している児童は、目的意識を持って効率的に学習しているので、当然のことながら各教科とも高い正答率を示しています。生徒については児童ほど顕著ではありませんが、同じ傾向が見られます。



学校の授業以外、1日当たりの学習時間をしっかり確保している児童と全くしていない児童の正答率の差は大きいです。生徒の方も同様の傾向が見られます。

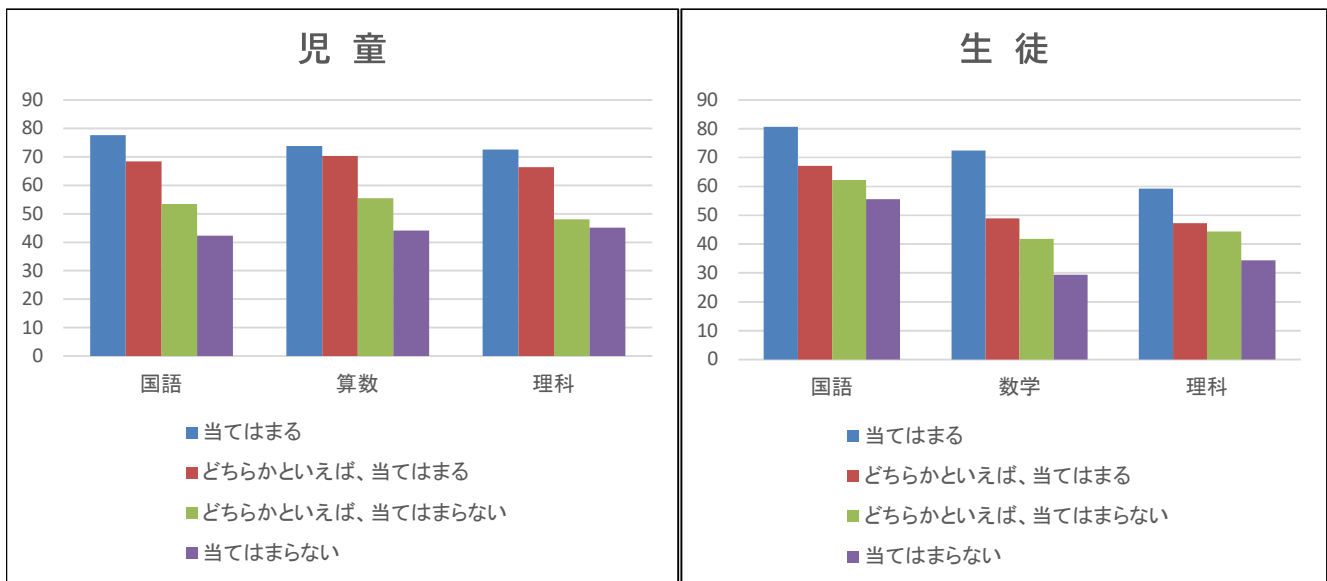


新聞を「ほぼ毎日読んでいる」+「週に1~3回程度読んでいる」など読む頻度の高い児童の正答率が高く、「ほとんど、または、全く読まない」児童の正答率は低くなっています。生徒についても同様の傾向が見られます。

(注)新聞を「ほぼ毎日読んでいる」+「週に1~3回程度読んでいる」割合は、児童約30%、生徒約40%でした。

児童生徒を主体とした授業改善に向けて

今まで受けた授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



授業中課題解決に向けて、自分なりに考え、取り組んでいる児童生徒の正答率は6年生も9年生も高くなっています。課題を設定し、主体的に課題解決に取り組むことが大切です。また、講義型の授業ではなく、問題解決型の授業を行うことが重要と考えます。

5 王寺町教育委員会の取組

子どもたちの主体的な学習態度を育み、学習習慣、生活習慣を身に付け、自己肯定感、規範意識等をより醸成するために、王寺町教育委員会と幼稚園・義務教育学校が連携して様々な取組を進めています。また、学校教育分野だけでなく生涯教育分野も含め様々な施策を実施しています。学校をはじめ、家庭、地域、行政等が目標を共有しながら協力して取り組んでいます。

○教科担任制による専門的な指導

算数は5・6年生、理科は5・6年生、英語は3・4・5・6年生に専科教員を配置し、後期課程教員の授業支援を受け、体育、家庭、音楽、図画工作(美術)の教科担任制を行い、教科指導の専門性を生かした授業を行い、学力・体力の向上を図っていきます。

○教職員研修の充実による指導力の向上

「分かりやすい授業」「やる気を引き出す授業」を構築するための授業研究、ICT等を活用した指導方法の研究など教職員の指導力向上のための研修を奨励しています。

○教育施設・設備の整備

児童・生徒が安全・安心で快適に学校生活を送ることができるように、義務教育学校の新築、改修工事に伴い、学校施設・設備を整備し、教育環境を充実させ、教育効率を向上させるよう努めています。また、2園化になった幼稚園においても、改修を進めています。

○ICT教育の推進

義務教育学校で、ICTを活用したプログラミング学習を進めています。また、デジタル教科書も使用しています。全児童生徒に配布した一人一台のタブレットの活用のため、各学級にプロジェクターを設置し、10GBの高速無線システムを導入しています。各校にICT支援員を配置し、授業支援等を行っています。さらに各義務教育学校には、学校図書館とICT環境を融合させたメディアセンターを設置し、学校全体のICT環境を整備しています。

○個別最適化学習の取組

令和元年度より算数の学習で個別最適化学習の取組を進めています。算数のテストにおいて、数学的思考の面で、その成果が現れてきています。一人一台のタブレットを活用したオンラインドリル学習にも取り組んでいます。

○町費講師等の配置

児童、生徒の学力の向上、集団生活への適応等を図るため、各義務教育学校に教員資格を持つ町費講師や様々に児童、生徒と関わる支援員を配置し、児童生徒の学習や学校生活のサポートを行っています。

幼稚園には特別支援教育に関わる講師を加配しています。

○学校・家庭・地域の三者連携による教育力の向上

「地域に開かれた学校づくり」・「地域の子どもを地域で見守る」・「子ども達の発達段階に応じた形で社会参加・社会貢献する」という3つの視点を大切に、学校を拠点とした子ども達と地域の人々をつなぐ「学校・地域パートナーシップ事業」を実施しています。

見守りボランティアの皆さんや地域の方々が毎日、児童生徒の登下校の安全に貢献していただいています。

○挨拶運動の推進

王寺町あげての挨拶運動(「あいさつ+1」運動)を実施し、日常的な挨拶を通して幼児・児童・生徒の規範意識の向上だけでなく、社会性やコミュニケーション力を育てています。

○外部人材を活用した教育活動の実施

幼稚園・義務教育学校において、奈良学園大学や奈良教育大学教職大学院の大学院生による学校教育への支援を受け、より丁寧な教育内容を提供しています。また学生自身が教育現場で経験を積むことにより、今後の人材育成につなげる授業支援学生ボランティア活動を実施しています。

○読書活動の推進

豊かな感性や情操を育むため、学校図書館司書を義務教育学校に配置し、読書活動の推進、蔵書管理システムの導入や図書の購入等による学校図書館の充実を図っています。また、町立図書館との連携強化も図っています。

○幼稚園、義務教育学校を通した外国語(英語)教育の実施

幼稚園では英語体験保育、義務教育学校では1年生から外国語(英語)教育に力を入れています。幼稚園と義務教育学校にネイティブスピーカーである外国人講師(ALT)を派遣し、幼稚園～9年生まで切れ目のない外国語(英語)教育に取り組んでいます。

○放課後学習支援事業として王寺町寺子屋塾(愛称:雪丸サポートスクール)の実施

4年生～9年生までを対象として、児童は週3回各2時間ずつ、生徒は週2回各2時間ずつの王寺町寺子屋塾(雪丸サポートスクール)を実施しています。地域の経験豊富な人材を活用し、児童生徒一人一人の学力及び学習意欲の向上と学習習慣の定着と、地域の教育力の強化を目的として実施しています。

6 保護者・地域の皆様へ

☆「早寝、早起き、朝ごはん」が生活の基本となります。これからも規則正しい生活を心掛けましょう。

☆ 学校の授業で習ったことの復習と予習を中心に家庭学習の習慣を付けましょう。

☆「褒めて伸ばす」「認めて伸ばす」ことが自己肯定感の育成につながり自尊感情が醸成されます。

☆ 児童生徒の規範意識の向上には、学校・家庭・地域が欠かすことの出来ない大切な役割を果たします。規範意識の高い環境づくりに取り組みましょう。

☆ 家族で地域の行事やボランティア活動に参加し、社会で起こっている出来事を話題にするなどして、社会生活に関心を持ち、社会参画意識を醸成するよう心掛けましょう。